

午後Ⅰ試験

問1

問1では、生成 AI を活用するプロジェクトを題材に、プロジェクトの特性を踏まえたプロジェクト計画の作成とリスク対応策の検討について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 2(1)は、正答率が平均的であった。違いの可視化及びその理解にとどまり、狙いであるテーラリングに言及できていない解答が多かった。プロジェクト計画は適用技術や開発アプローチなどに整合させることが重要であり、それに必要となる情報を可視化する必要がある点を理解してほしい。

設問 3(2)は、正答率がやや低かった。生成 AI の学習データとして求められる正確性・多様性・網羅性について、それぞれ、初期及び追加でどのように担保できるのかどうかを見極め、それにふさわしい方法での準備を行う必要のあることを意識してほしい。

問2

問2では、プロジェクトへの関与度が“支持”でないステークホルダが存在する状況下の情報システム刷新プロジェクトを題材として、ステークホルダマネジメントの計画、及びコミュニケーション計画の作成について出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 2(2)は、正答率がやや低かった。J 課長がワークショップの事前検討会を実施する背景は、以前の SaaS 導入の際に、“I 社の営業活動への適合の観点での事前検討を行わずに、要件定義で、SaaS ベンダーに標準機能をそのまま説明してもらった”ことによって引き起こされた失敗である。これを繰り返さないため V 社に出席してもらうのであり、この点を読み取って解答してほしい。

設問 2(3)は、正答率がやや低かった。“営業担当者から抵抗される”、“要件定義が紛糾する”など、要件定義の進捗が遅延するリスクを引き起こす要因だけを記述した解答が散見された。設問文から、進捗が遅延するリスクを問われていることを読み取って解答してほしい。

問3

問3では、実施中に法改正対応が必要となったシステム開発プロジェクトを題材に、プロジェクト体制の見直しやスケジュールリスクへの対応など、統合マネジメントについて出題した。全体として正答率は平均的であった。

設問 3(1)は正答率がやや低かった。設問文に記載されている、“スコープ S のうちスコープ T の開発の影響を受けないと考えられる部分の開発を先行して進める”とは、ファストトラッキングを意味している。このスケジュール短縮策のリスクとして、開発を先行して進めた結果、当初の考えと異なる状況となった場合に発生する事象を理解して、正答を導き出してほしい。

設問 3(3)は正答率が低かった。“第三者によるバッファ見積りの実施”などのバッファの見積りに関する解答に加えて、本文の記載を抜き出した“注意してバッファを管理しスケジュールを見直す”との解答が散見された。スケジュールバッファの設定方法の工夫を問うているので、クリティカルチェーン法に基づいて解答してほしい。